

たまご、の、あなた

木村藍

きょうの夕食は何だったときのうに聞く

／何を言ってるんです、ツツジのおひたしをつくっておいたでしょう／
そうだ、きのう、ツツジを蒸したら、ハチミツの香りがするだろうと思って
蒸籠にほうりこんだまま

あす蓋を開けたら雨の匂いがする

あなたのはなしは風景のない迷路のように退屈で
ナイロンのまつ毛が石油に戻るところを想像する

あなたのまつ毛はナイロンでできている

／シルクだったら、いいのに／
そういつてあなたはわたしのところをピンでとめた

そうだ、

我々は確かに福音であったのに
なにひとつ所有しなくても
我々こそすべてだったのに

屈折角で太陽を焦がそうとしたのは
燃え滓で占いがしたかったから
明日太陽が出るかどうか
易を立てたのは

あのひかりを見ることができる存在が
もうここに

永遠にないから

彼らこそ福音です！

誰かに守られなければ

自分の身さえ守れない

彼らこそが福音なのです！

／もつとも、福音などというものが、この世に存在すれば、の話ですが／

光を知らないのです

誰にも

生きているか

どこまでが自分なのか

証明することができないのです

土に這う微細な福音たちは

自分が土なのか地面なのか星なのか

わかっていないのです

赤い赤い卵をわって

真に黄色いきみをえぐる

この黄色には、生きようとしたすべてが浮かんでいます！

あなたはこの黄金色のスフレに

かがやく卵のソースをかけた

アングレイズ、を、アングレイズ、と、聞き違えた

／ここに浮かんでいるのは、ウフ／

違うよ、そこに浮かんでいるのはネージュのほうで、雪のほうで、海のほうで、白い泡沫が、プランクトンが、わたしの、しについての執着を、泳ぎな

がら笑う

わたくしの自由な精神はどこへ行ってしまったのでしょうか

巴里が、生肉をステーキだと言って聞かないので

三日三晩ステーキを食べました

葡萄牙が、ケーキはボーロだと言い張るので

その生焼けの、命がそのまま混沌として、空気とまじりあうのを嫌がっている、粘性の躍動するボーロを、喉に流し込みました

ウフだと言ったあなたは、いない

生臭い卵殻の風が、身体を巡って、私たちが生きていたのに、どうしてくれるのだと、美しい反乱を起こそうとするとき、わたくしが眠って、漱石の向上心について夢を見ると、太宰の記した盃の絵に、ウヰスキーを注がんとするとき、オダサクが起きだして、細い身体は嫌だ！と叫ぶ、ルパンの椅子のうえ

例えば許しが共時的で、恨みが通時的であるように

演繹は精神を成さず、帰納では意識が生まれないように

卵はそのすべてを知っているのに

我々はそのすべてを食べてしまつて

どうしてひとは死ぬのかと

ひとしきり悩んで

死んでいきます

生きているものを

食べて食べて食べて

それでも

どうして生きているのか

何故ここに在るのか

わからないまま

福音である時間は

あまりに短く